

神奈川県立衛生看護専門学校
令和7年度（2025年度）学校評価報告書

重点目標：1. 令和7年度カリキュラムを円滑に運営する。/ 旧カリキュラムで入学した学生の単位修得における不利益を生じさせない

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
カリキュラム運営・旧カリキュラム生の単位修得への取り組み（看護学科）	看護学科	・新カリキュラムの運営も4年目となり計画通りに運営ができています。 ・旧カリキュラム対象学生に対し、不利益が生じないよう補講対象科目の単位修得に向け支援を行った。また新カリキュラムへの読み替え科目は、読み替え表を作成し、確実に科目を受講することができた。 ・カリキュラム改正に伴い3年次で受講予定の旧カリキュラム科目だった科目（母性看護方法論Ⅲ・成人看護方法論Ⅶ・成人看護実践論Ⅱ）は補講を計画し、対象学生全員（2名）が単位修得できた。 ・在宅看護実践論は、再度学生個々の課題で評価対象外となったため、単位修得に至らなかった。学習状況や個人的な課題があることから、次年度修得できるよう個別的な支援が必要である。（1名） ・2年生に在籍していた科目履修学生(1名)も、昨年度に続き再度老年看護実践論Ⅲを受講したが、再度不合格となり進路変更となった。また、2年生在籍の他の学生(1名)は、科目開始前に進路変更に至った。	・2年次の旧カリキュラム科目では老年看護実践論Ⅲの不合格者1名のみ履修となった。 ・読み替え可能な科目について読み替え表の作成により漏れることなく確実に受講できた。 ・<u>単位不合格の理由は、カリキュラム運営に関する課題ではなく学生個々の学力や心身の体調管理等の課題によるもの。</u> ・したがって学生が不利益を被ることなく目標は達成したといえる。	・旧カリキュラム対象学生は、新カリキュラムへの読み替え表を作成したことで滞りなく受講できたが、単位修得状況に関しては、学生個々の学習状況の課題によるもの。 ・新カリキュラムでは、今年度入学の学生(8名)及び2年生に在籍する学生(26名(科目履修生11名、新2年生15名))で単位不合格となった学生が存在する。次年度単位修得できるよう個別に支援していく。 ・旧カリキュラムの運営に関しては、補講科目の計画・実施を滞りなく行えた。また読み替え科目については、読み替え表に基づき、履修科目の漏れなく、科目の受講及び単位の修得に至ったと評価する。 ・よって旧カリキュラム学生にとって不利益を生じさせない運営だったと評価する。	・カリキュラム改正後4年目になり、少ない旧カリキュラム対象者に対しても、不利益なく、十分に対応しており評価できる。 ・単位未修得の旧カリキュラム対象学生は、カリキュラム運用の問題というよりは、学生個々の問題であり、学校側のカリキュラム運用については適切に行われた。	・2025年度（令和7年度）は全学年が新カリキュラムに移行して4年目を迎える。 ・それ以前の回生で3年次に在籍する学生の単位は概ね修得されており、<u>残り1名の学生が在宅看護実践論と統合実習を残している。</u> ・そのため、昨年度と同様、対象学生にとって不利益が生じないようカリキュラムの調整を行っていく。 ・単位修得に至らなかった学生の課題を達成するため、次年度は関連科目の聴講ができるように調整する。

神奈川県立衛生看護専門学校
令和 7 年度（2025 年度）学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
	助産師学科	・令和 4 年度改正カリキュラム 4 年目である。計画通り、学内授業・臨地実習とも滞りなく実施した。 ・臨地実習では、前年度と同様に病院・助産院と細やかな調整を行い、実習に臨んだ。 ・精神面の不調による休学並びに実習の欠席、指導を受けると体調を崩す等の学生の反応が複数件見られた。精神科の診断を受け、治療を行っている学生に対して、実習受入先と協議を重ね、学生の安全及び対象の安全確保に努めた。 ・年度末に病院実習施設の指導者（12 施設中 10 施設、計 14 名）に参集いただき、臨床指導者会議を実施した。 「発達障害傾向（グレーゾーン）にある学生や新人に対する支援のヒント」のテーマで文化学園大学 総合教養 B(健康心理学)研究室教授・臨床心理士の菊住彰先生を講師に迎え、講演会・意見交換を行い、学生・新人への教育指導の留意点等を共有した。 ・カリキュラム評価を行い、昨今の分娩数減少や日中の分娩介助指導のみ受け入れる方針が影響し、学生の分娩介助件数の減少に繋がっていること、また 16 週間の継続した臨地実習によるメリット(実習だけに集中できる)・デメリット(16 週間を乗り越えるための、持久力の乏しさやコーピング不適応、対応能力及び処理能力を超える)が明確となった。	・60 回生 26 名中、1 名が休学した。理由は体調不良であり、次年度復学予定である。 ・休学者を除く 60 回生 25 名は、全単位を修得し卒業した。60 回生 25 名中 22 名は、臨地実習で 9 件以上の分娩介助を経験した。3 名は、8 件の分娩介助を経験した。 ・上記結果より、カリキュラム運営は円滑に行えたと判断するが、分娩介助件数の確保は課題。	・精神疾患のコントロール不良及びレジリエンスの低さ、ストレス対処不足が影響したと考える。 ・臨床も精神科の診断を受け、治療中のその学生への指導に戸惑うとの申し入れがあり、適宜調整を行った。 ・臨床指導者会議において複数施設から前年度比で分娩件数の更なる減少が報告された。合併症等、ハイリスク事例が増加し麻酔分娩が主流になっている施設も多い。そのため助産師学生の分娩介助指導、継続事例等の選定に苦慮しているとの意見があった。適宜調整に努めたが、臨床と教員は、更に学生指導に係る伝達・共有を密に行う必要がある。 ・学生の持久力不足、環境への不適応行動が複数みられたため、実習進度の検討や実習記録の負荷を低減する必要がある。	・講義や実習に耐えられるかを見極めるため、ストレス耐性や継続力・持久力を図れるよう、入試の段階から面接等を工夫することを考えてもいいのではないかな。 ・講義や実習についていけず、適応に苦慮している学生については、学生のためにも入学後の早い段階で振り返りなど進路変更について考える機会を与えることを考えてもいいのではないかな。	・助産学実習は、病院、助産院と連携を密に行い、分娩介助 10 件をめざす。(継続) ・学生指導にあたり、臨床と学生のレディネスを共有しつつ、指導者と教員間の「学生観」「指導方法」を共有し、学生の成長を支援するよう努める。(継続) ・精神面の不調を抱える学生への支援として、ストレスマネジメントの講座を計画している。また、学生との対話に重きを置き、丁寧な対応・指導に努める。 ・実習指導教員の助力を得て、臨床の実習指導に対する戸惑いに適宜対応する。(継続) ・実習記録の一部見直しと変更を行ったため評価するとともに、実習進度についても検討を行う。

神奈川県立衛生看護専門学校
令和 7 年度（2025 年度）学校評価報告書

重点目標：2. 令和 8 年度入学生を確保する（看護学科）

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
入学生確保	看護学科	【入学生の量的確保】 《オープンキャンパス・相談会》 ・4 月から定期的にオープンキャンパスを計 12 回実施した。特に輝翔祭(文化祭)と併催して予約制で実施したところ、計 63 名(前年度 24 名)の参加があった。(4 月、6 月、7 月(輝翔祭)、8 月、9 月 各 2 回) ・進路指導担当説明会を実施(2 回→3 回)。教育担当副校長等や看護学科長が複数の受験生が期待される 2 校に個別説明。 《指定校・公募推薦枠の拡大》 ・県内在住で県外校に通う生徒を念頭に公募推薦枠を全国に拡大(客観的な学力把握のため入試の小論文を国語(現代文)に変更)するとともに、指定校推薦対象校の見直し拡大を行った。 ・校長・副校長の指定校推薦校への訪問説明を 20 校に行った。(前年度 13 校)	・令和 8 年度入試では、出願者 116 名に対し、合格者 87 名、入学者は 74 名に留まった。 ・内訳は、 総合型選抜 28 名(28 名) 指定校推薦 27 名(39 名) 公募推薦 8 名(5 名) 一般選抜 11 名(7 名) 計 74 名(79 名) () は前年度データ。 ・特に指定校推薦が 12 名減と大幅減となり、一般選抜は、合格者 22 名のうち 11 名が大学進学等で辞退となった。 ・全体としては、令和 7 年度入学者 79 名に比べて令和 8 年度入学者は、5 名減の 74 名となり、定員 120 名に対し 62%の確保に留まり、<u>目標は未達成となった。</u>	・18 歳人口の減少や新型コロナ後の看護師志望者の減少に加え、大学志向が顕著。指定校推薦でも進路担当から「大学が第一選択肢」の声が多い。一般推薦辞退者も大学進学が主であり、入学者減が継続する恐れが高い。 ・全国拡大した公募推薦は入学者微増も見られた。 <u>・今後は、大幅減となった指定校推薦枠の見直し・重点化を進める必要がある。</u>	・学生を集めるため、推薦入試を全国展開することは評価できる。地方からすると、横浜や東京は、地の利がよいので、そこを活かして展開することもないのか。 ・指定校・公募推薦枠の拡大については、対象校数のみならず、1 校当たりの推薦枠も柔軟に増してよいのではないか ・18 歳人口が減少している中では、社会人をターゲットにして売り込むのもいいのではないか。その際は、社会人として学びやすいようサポートの仕組みを考えてみるのもよい。	・オープンキャンパスは輝翔祭(文化祭)での実施を予約制で継続。 ・進路担当説明会、学校訪問等を継続実施。 <u>・推薦枠は、指定校推薦枠の全国化を図る。</u> <u>県内では入学者の多い県東部、横須賀三浦を中心に推薦枠の見直し・重点化を図る。</u> 全国化した公募推薦枠は精査の上継続拡大。 ・1 校当たりの推薦枠は能動的に柔軟な対応を図る。 ・引き続き、総合型選抜や一般選抜で社会人に入学してもらえよう広報していく。

神奈川県立衛生看護専門学校
令和 7 年度（2025 年度）学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
入学生確保	看護学科	《助産師学科との連携》 ・助産師志望の高校生に看護学科から入学いただけるよう「助産師に興味のある方見学会」を新たに開催し 9 名が参加した。 ・令和 8 年 4 月に助産師学科が国から専攻科の指定を受け、修了後「高度専門士」「大学院入学資格」が得られることとなり、令和 9 年度入学に向けた助産師志望者へのアピール度が高まった。		・助産師学科が専攻科に指定されたことに伴い、<u>助産師を目指す学生に力点を置いたアピールが重要になると考えている。</u> ・校内 Wi-Fi は稼働済み。また、新たな校章やマスコットの普及、社会貢献活動等、学校アイデンティティを高める取組みを進めることも大切である。	・助産師学科が専攻科に指定されたことについて、助産師学科を目指す看護学生に注目してもらうため、受験生のみならず、高校の進路指導担当教員にもアピールすべきである。 ・一方で、助産師学科へは、助産師を志望して入学してくる看護学生全員が入学できるものではなく、さらに助産師学科の実習施設との兼ね合いから助産師学科の入学者は入学定員（40 人）より絞られているので、アピールの方法は慎重に考える必要がある。 ※参考として、厚生労働省の「2040 年に向けた看護職員の養成・確保の在り方に関する検討会」の動向を紹介	・助産師学科の専攻科指定に伴い、<u>学内公募制度を活用すると、看護 3 年+助産 1 年の最短 4 年で「看護師」「助産師」「高度専門士」「大学院受験資格」が得られる点を大学進学以上のアドバンテージとして丁寧にアピールする。</u> ・<u>学校アイデンティティを高める取組みも、順次工夫して進める。</u>

神奈川県立衛生看護専門学校
令和 7 年度（2025 年度）学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
	看護学科	入学生の質的確保】 《オープンキャンパス・相談会》 ・オープンキャンパスでは、学生の生の声を聴き、学校生活のイメージを感じてもらうため、模擬授業・技術演習を実施した。また学生をモデルとした学校生活の内容が伝わる動画を作成・放映するなど、学生との交流を増やし、看護の魅力を伝える取り組みを強化した。 ・教員と保護者の座談会を設け、詳細な説明及び質問への丁寧な説明を行い看護学生への理解を深めた。 ・学校が学生に期待するアドミッションポリシーについて資料とともに丁寧に説明し、看護学生の心構えを促した。 《助産師学科との連携》（一部再掲） ・令和 8 年 4 月に助産師学科が国から専攻科の指定を受け、修了後「高度専門士」「大学院入学資格」が得られることとなり、令和 9 年度入学に向けた助産師志望者へのアピール度が高まった。 ・学内公募制度を活用すると、看護学科 3 年+助産師学科 1 年の最短 4 年で「看護師」「助産師」「高度専門士」「大学院入学資格」が得られるため、大学進学と同レベルのアドバンテージとなり、意欲ある学生確保が期待できるようになった。	・令和 7 年度入学生に占める科目の未修得者の割合は、全体 8.8%(前年度 18.6%)であった。	・オープンキャンパスでの在校生との対話の重視により、入学希望者に学生生活への一定の理解が深まったものと認識される。 ・保護者対象の座談会の設置により、保護者の看護学校への不安感が若干払拭されたと思われる。 ・看護学科のアドミッションポリシーをより明確に打ち出す中で、入学希望生に本学科が入学を望む学生像を具体的に説明することができた。 ・助産師学科の適格専攻科指定を、意欲ある学生の更なる確保に活かしていく必要がある。	・アドミッションポリシーの説明当たっては、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをセットで説明すると効果的である。 ・助産師学科の専攻科指定で、質の高い学生を集めやすくなると期待できるが、一方で、助産師を希望する看護学科の学生が全て助産師学科に進めるわけではないため、アピールの方法は慎重にする必要がある。	・入学生の質的確保に関しては、受験前における、アドミッションポリシーの浸透、学校生活イメージの周知とともに、入学後の適切な指導に努める。 ・オープンキャンパスや見学会での学生関与、助産学科との連携等も積極的に進めていく。 ・助産師学科との連携は引き続き進めるが、助産師学科への進学については丁寧に説明していく。

神奈川県立衛生看護専門学校
令和 7 年度（2025 年度）学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
					・入学者確保に引き続き取り組むとともに、入学後の学生支援について、合理的配慮に係る対応を適切に図っていく必要がある。	・入学後の学生支援について、合理的配慮への対応を適切に図っていく。 【全体総括】 <u>・本校の使命は、地域に貢献する看護師の養成であることを認識し、量と質のバランスに考慮し、学生の確保に努める。</u>

神奈川県立衛生看護専門学校
令和7年度（2025年度）学校評価報告書

重点目標：3. 実習施設を確保する（助産師学科）

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
実習施設確保	助産師学科	・令和7年度は病院実習を12施設(26名)で実施した。しかし、2施設で分娩介助数が8件に留まった。 ・要因として、1施設は実習時間の延長ができず、実習時間内での分娩介助に至らなかった。もう1施設では、病院・助産院ともに、学生1名が心身の不調を理由に実習を休み、実習期間内に終わられなかったことが影響している。他、9施設(22名)では、9件以上の分娩介助を実施できた。 ・令和8年度臨地実習施設を確保にあたり、施設数の増加ではなく、令和7年度の12の病院施設(26名)に対し1施設で学生の受入増加(2名→3名)を申し入れた。 ・結果は前年度と同様に1施設より3名の受入承諾を得た。これにより、<u>令和8年度は12の病院施設で学生総数25名の受入</u>となった。(受入数減もあり総数としては令和7年度比減) ・令和7年度の助産所実習施設は11施設で臨地実習を行った。令和7年度に新規実習施設として横須賀市の助産院にて助産学実習を行ったが、特に問題なく実施できた。当該施設は次年度、継続事例実習施設として依頼している。 (11施設中6施設で依頼(うち4施設は分娩期実習も依頼))	・入学生確保のためには、実習受入施設の確保が必須である。 ・助産所実習の施設確保及び継続事例実習先の確保はできたが、病院実習施設における受入人数の増加による確保には及ばなかった。 ・1実習施設で3名の助産師学生を受け入れるには、分娩数の減少及び働き方改革の推進等により、分娩介助実習の指導は日勤帯に限定等の理由で11施設から学生2名の受入を継続すると通知があった。 ・従って目標は未達成と判断する。	・令和7年度は、<u>12施設(26名)で病院実習を行った</u>。既存施設での受入学生数増(2名→3名)を12施設に打診したところ、1施設より3名の受入承諾を得ることができた。 ・従って、<u>令和8年度は、総数25名分の病院実習先を確保できた。休学者1名が復学のため、入学生は24名の確保</u>となった。 ・助産所実習施設を新規に1施設(横須賀市の助産院)を確保した。助産師学生の受入は初めての施設だったが、トラブル等なく実習を行えたため、次年度は、継続事例実習を依頼した。当助産院では初めて本校の継続事例実習を受け入れていただくため、丁寧な調整及び対応を行う。	・実習施設の確保及び1施設当たりの受入れ人数の確保については、出生数の減少に加え、麻酔分娩の割合が増加している中、施設の事情に配慮しつつも、粘り強く交渉していることを評価する。	・令和8年度は、<u>令和7年度と同様、病院12施設、助産院11施設での実習を計画している</u>。 ・学生にとって、安全で効果的な指導を実施するためには、施設数を増やすより、1施設での受入人数を増員いただくよう調整する。分娩数、臨床指導者含め、指導体制を鑑み、2名の受入施設に3名の増員を相談・依頼を継続して行う。 ・新規施設の模索と合わせて、現行カリキュラムにおける実習進度を検討し、分娩介助9例以上の実施が可能となるよう調整していく。